



大阪のドまん中で愛を貫く
大阪メロメロメロドラマ



大阪のドまん中で愛を貫く 大阪メロメロメロドラマ NEW LOCATION OF OSAKA シナリオ部門 小説部門 共通課題 解釈

①メロドラマとは？

宝塚映像にて約1000本のメロドラマをプロデュースされた当校前所長・倉田順介先生のメロドラマの定義は、①音楽と切って離せない。②主題は恋愛感情。③波乱万丈 ④勧善懲惡 の四項目であった。師匠の木村恵吾監督から教わられた定義である。

事典および書物によると「メロドラマmelodrama（英）」とはギリシア語の「メロス=音楽」と「ドラマ=劇」を語源とする語。広義の意味で音楽を伴った劇全般。十八世紀から十九世紀にかけてヨーロッパ各地で流行した大衆演劇のジャンルを示す。

ルソーが『Pygmalion』で、セリフの間に音楽を入れたことに始まりオペラ用語として用いられた。十八世紀後半、古典主義の否定とフランス革命をきっかけとして客受けを目的とした娯楽性の強い劇を総称して呼ぶようになった。

一般的に「メロドラマ」「メロドラマ的」という言葉は、多くの場合お決まりのパターンを繰り返すことから、通俗的で抒情過多の「お涙頂戴」ものとして、差別的に用いられることが多かった。『メロドラマ的想像力』の著者、ピーター・ブルックスは「メロドラマ」の特徴を次のように記す。

強い感情への耽溺、道徳の分極化と図式化、極限的な存在状態、状況、行動。あからさまな悪行、善なる者たちへの迫害と、最後に美德の勝利。誇張された表現。いわくありげなプロット、サスペンス、息をのむような運命の急変。以上が「メロドラマ」という言葉に含まれることがらである。

しかしブルックスは、元来「メロドラマ」蔑視の根柢となってきたこれらの特徴にこそ「メロドラマ」の価値を認め、「注目に値する一貫したモード」として「メロドラマ」の再定義を試みた。

「メロドラマ」の源泉をフランス革命期と、その直後とする。革命後の近代市民社会の揺籃期においては、それまでのキリスト教的神や封建制度といった、絶対的な価値観（＝「聖なるもの」）が損なわれ、人々の存在理由の中心となるべき核が喪われ、空白化し、判別困難な不可視のものとなる。ブルックスは、「メロドラマ」がそのような不安定な状態から、人々が自らの精神を救い、中心を回復させるための試みであり、またそのための一種の儀式として機能したとブルックスは捉えた。

ブルックスは、「メロドラマこそは、聖なるものが喪われた時代に、本質的道徳を提示し、機能させるための主要なモード」と說いた。この「メロドラマ」論は映画界に大きなインパクトを与えた。

ハリウッドでは、ホームドラマ、サスペンス、フェミニズム、アクションに併用してメロドラマが表現されている。またゲイ映画でもメロドラマが表現されている。

多くの映像研究者が「メロドラマ」について考察しているが、一概に作り手と学問は異なると決めるることは避けるべきである。これを機に、このコンクールの応募者各自がメロドラマを知ろう、学ぼうと、映画を観たり、書物を紐解いたりすることには意義がある。従って敢えて定義については限定せず、応募者各自に学んでいただくという方法をとる。

②大阪メロメロメロドラマ

大阪を舞台とする。

③NEW LOCATION OF OSAKA 出題意図

2025年万博へ！ 都市開発に伴う希望に満ちた大阪の未来を願い、『新しい大阪を舞台にしたドラマ』を目指す。

④なにを描いていただきたいのか？

『大阪のドまん中で愛を貫く』
～恋愛感情を主題として葛藤と欲望を描く～

上記スローガンを出題の狙いとする。



ALL ENTERTAINMENT SINCE 1976

主催 株式会社シナリオ・センター大阪校